

한통련 뉴스레터

제86호

発行:在日韓国民民主統一連合 (韓統連)

〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284
メール chuo@korea-htr.org ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方はchuo@korea-htr.orgまでご連絡ください。(メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください)

정세 情勢

●NATO首脳会議、グローバル軍事同盟を志向…韓米日軍事同盟化・合同軍事演習に反対する



ハワイのインド太平洋軍司令部を訪問した尹錫悦大統領

「NATO共同声明」朝口関係強化を非難

北大西洋条約機構 (NATO) の創設 75 周年を迎え米ワシントンで行われた NATO 首脳会議は 7 月 10 日 (現地時間)、共同声明を發表し「われわれは多数の国連安全保障理事会決議に違反する北朝鮮 (※正しくは朝鮮、以下同じ) の (ロシアへの) 砲弾と弾道ミサイル輸出を強く糾弾し、北朝鮮がロシアとの関係を深めていることについて大きな懸念を持って注目している」との立場を示した。

首脳らは、北朝鮮とイランが弾薬や無人航空機 (UAV) の提供など直接的な軍事支援によってロシアのウクライナ侵略に加勢しているとしながら、このような行為が「欧州・大西洋の安保に深刻な影響を及ぼし、国際不拡散体制を弱体化させる」と非難した。

また、イランがロシアに弾道ミサイルと

関連技術を移転すれば「重大な緊張を高める」行為になると警告した。

首脳らは中国をロシアのウクライナ戦争を助ける「決定的な支援者」と規定し、中国の支援によりロシアが隣国や欧州・大西洋の安保に与える脅威が増加したと指摘。中国にロシアの戦争努力に対するあらゆる物質的・政治的支援を中止するよう求めた。さらに、中国の野望と強圧的な政策が NATO の利益と安保、価値に反し続けているとの見方を示した。首脳らは中国が核兵器を急速に拡充させているとして、核兵器の危険を減らすための対話に参加し、宇宙とサイバー空間において責任ある行動を取るよう促した。

NATO 首脳らは翌日、インド太平洋地域のパートナー国 (IP4、韓国・日本・オーストラリア・ニュージーランド) と欧州連合 (EU) の首脳と会議を行い、「共通の安保課題と協力分野」について認識を共有した。また、IP4 の首脳会談では北朝鮮とロシアの軍事協力を非難する共同声明を採択した。

韓国「NATO共同声明」歓迎

韓国外交部のイム・スソク報道官は 11 日の定例会見で、NATO が共同声明で北朝鮮とロシアの軍事協力強化に懸念を示したことについて「歓迎の意」を示した。

イム氏は「ロシアと北の違法な武器取り引きや軍事・経済協力強化に対する NAT

○首脳の一一致した声は欧州とアジアの安全保障が結びついているという認識によるもので、ロ朝に対する強力なメッセージになったと評価する」と述べた。また、「ロシアと北が違法な協力に対する国際社会の深刻な懸念や断固として対応するという意志を厳重に受け止め、関連活動を直ちに中止することを促す」と強調した。

尹大統領「インド太平洋軍司令部」訪問

尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領は9日（現地時間）、ハワイ州ホノルルのインド太平洋軍司令部を訪問した。韓国大統領では29年ぶり。

尹大統領は同司令部で「北の核・ミサイル能力の高度化と持続的な挑発が朝鮮半島と域内の安保を損ねている」とし、「いつにも増して確固たる連合防衛体制が緊要であり、そのためのインド太平洋軍司令部の役割は重い」と述べた。

韓国大統領室は、尹大統領がNATO首脳会議に先立ち、太平洋地域の軍事・安保戦略の要衝地であるインド太平洋軍司令部を訪問して韓米同盟の強力な結束と力を誇示したと説明した。

韓日首脳会談

尹大統領は10日（現地時間）、米ワシントンで岸田文雄首相と会談し、「岸田首相との堅固な信頼に基づき、両国が緊密な意思疎通を続け協力の成果を積み重ねていることをうれしく思っている」と述べた。両首脳はNATO首脳会議に出席するためワシントンを訪問した。

尹大統領は北朝鮮とロシアが「包括的戦略パートナーシップ条約」を締結し、軍事的・経済的接近を加速させる動きは、東アジアはもちろん、世界の安全保障に「深刻な懸念」をもたらしていると指摘。「日増しに厳しさを増す国際安全保障状況の中で、両国が3年連続でIP4としてNATO首脳会議に参加することは戦略的意義が非常に大きい」と評価した。また、「両国がNATO加盟国と緊密に連携しながら北大西洋の安全保障と北東アジアの安全保障が決して切り離せないことを友好国と一体

となった対応で確認していきたい」と強調した。

韓米首脳会談、「核指針」採択

尹大統領とバイデン米大統領は11日（現地時間）、ワシントンで会談し、対北朝鮮の核抑止に関する新たな指針「韓米朝鮮半島核抑止核作戦指針に関する共同声明（韓米核指針）」を採択した。両氏は共同声明で「北朝鮮による韓国へのいかなる核攻撃も即刻、圧倒的、決定的な対応に直面する」と警告した。

韓米核指針は、韓米両政府が昨年設置した「核協議グループ（NCG）」で策定された。米軍の大陸間弾道ミサイル（ICBM）、潜水艦発射弾道ミサイル（SLBM）、戦略爆撃機の3本柱で構成される核戦力の常時配置や展開、韓米両軍の統合運用で、北朝鮮の核攻撃を抑止すると定めた。

韓国大統領府の金泰孝（キム・テヒョ）国家安保室第1次長は「米国の核兵器に朝鮮半島の任務が特別に割り当てられる」と説明。「米国の核資産（戦力）に北朝鮮に対する核抑止と対応という任務が文書で明示されたのは初めて」と強調した。

尹大統領は16日の閣議で、韓米核指針について、韓国は北朝鮮によるいかなる核脅威にも機敏かつ効果的に対応できる体制を構築することになったと説明し、「韓米同盟は名実ともに核を基盤とする同盟に格上げされた」と述べた。

朝鮮「NATO共同宣言」糾弾・「核指針」反発

朝鮮中央通信は13日、NATO首脳会議の共同宣言について「最も強力に糾弾する」とする外務省報道官談話を伝えた。報道官は宣言が「世界規模での新冷戦と軍事的対立をあおっている」と批判した。談話は12日付け。

共同宣言は、北朝鮮の軍事支援がロシアのウクライナ侵攻を助長していると指摘し、朝ロの軍事協力の深まりに懸念を表明。これに対し報道官は「米国が追求するNATOの『グローバル化』戦略が、世界

的な戦争の危機を招きかねない」と警告した。

朝鮮国防省報道官も13日に談話を出し、韓米首脳がNATO首脳会議に合わせた会談で、対北朝鮮の核抑止に関する新たな指針を承認したことに反発。「敵対国家がこれ以上の挑発的で不安定をもたらす危険な行動を中止するよう警告する」とし、「無視する場合の代償は、誰も想像ができないだろう」と主張した。

グローバル軍事同盟・合同軍事演習に反対する



I P 4 首脳会談

今回のNATO首脳会議の共同声明は、ロシア・朝鮮・イラン・中国の4カ国を平和の破壊国とみなした。ウクライナ戦争において、ロシアに対する朝鮮・イラン・中国の直間接的な軍事支援を遮断することにまずは目的を置いているが、特に中国の動向を重要視し最大限の警戒を示している点を見逃してはならない。

このような認識の下にNATO首脳会議が進める戦略方針は、NATOと米国のインド太平洋同盟国（I P 4、韓国・日本・オーストラリア・ニュージーランド、※ニュージーランドは米国・オーストラリアとの三カ国軍事同盟ANZUSから一時脱退）の軍事協力の強化であり、欧州・大西洋とインド太平洋を結ぶ軍事同盟ネットワークを構築することにより、「平和の破壊国」に対抗し、さらにはこれを抑え込み、世界中で起こるあらゆる紛争に対処

（介入）するところにある。

朝鮮国連軍司令部の活性化による軍事ネットワークがこれに重なれば、まさに米国が主導する全地球的規模のグローバル軍事同盟ネットワークが完成すると言っても過言ではない。

I P 4は2022年からNATO首脳会議に参加するようになったことを考慮すると、米国とNATOはこの方針の具体化を着々と進めてきたといえる。韓米日・韓日の軍事協力の強化＝韓米日・韓日軍事同盟化はこうした脈絡の中に位置づけられるし、尹大統領のインド太平洋軍司令部訪問は、韓国が率先してインド太平洋同盟軍の構築に向けた旗振り役をしたということだ。

韓米首脳会談では韓米核指針を採択した。朝鮮の核兵器に対する抑止と対応のために、米国の核資産（核兵器）を有事・平時を問わず朝鮮半島での任務に割り当てることが初めて文書で確約された。尹大統領は「韓米同盟は名実ともに核を基盤とする同盟に格上げされた」と満足感を示すだけで、その危険性については触れない。8月に予定される韓米合同軍事演習「ウルチ・フリーダム・シールド」では韓米核指針に基づいて核戦争演習が行われる。ほとんど常時に近い頻度で米国の核兵器が韓国に配備されれば、朝鮮半島および東アジアの軍事緊張は核戦争も想定される次元へと進展する危険性をはらむ。

8月10日にソウルで開かれる「戦争助長、韓米日・韓日軍事同盟推進 尹錫悦政権退陣！ 8.15汎国民大会」では、韓米日・韓日軍事同盟化と核演習を含む合同軍事演習に徹底して反対の声を上げなければならない。

●情勢短信

「拒否権拒否汎国民大会」開催



尹政権に抗議する参加者たち（7月13日）

「チェ上等兵特検法拒否強力糾弾！ 民生改革立法即時受け入れ！ 拒否権拒否汎国民大会」が7月13日ソウル市内で開催された（大会後は行進）。主催は「拒否権を拒否する全国非常行動（全国非常行動）」と6野党。参加者は尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領の拒否権行使と権力乱用を厳しく糾弾した。

市民社会側では9月28日、全国同時開催形式で尹錫悦退陣大会を準備している。「全国民衆行動」と「尹錫悦政権退陣運動本部」は下半期闘争を通じて、民生改革と尹錫悦退陣を求める民意を退陣民衆大会（12月）へと集めていく計画。

チェ上等兵の1周年を迎える7月19日には、全国非常行動の主催、「軍人権センター・軍死亡事件遺家族」の主管により、「チェ上等兵特検法拒否糾弾！ チェ上等兵1周年 軍死亡事件被害者追悼キャンドル文化祭」が開催された。

「8.15汎国民大会」記者会見



記者会見の様子

8月10日にソウルで開かれる「8.15自主平和大会」を知らせる記者会見が7月16日にソウル市内で開催された。大会名称は「戦争助長、韓米日・韓日軍事同盟推進 尹錫悦政権退陣！ 8.15汎国民大会」で、大会後は米・日大使館と大統領室に向けて行進も予定。主催は「自主統一平和連帯」をはじめとする「8.15汎国民大会推進委員会」。推進委では事前行動として、20日までと8月8日までの2回にかけて大会趣旨に呼応する各界宣言を集めると共に、国内外300カ所で様々な平和行動を

展開すると発表した。

記者会見参加者らは会見文を通じて「総選挙で国民の厳しい審判を受けたにもかかわらず、尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権は反省と政策転換をすどころか、むしろ意図的に戦争助長に邁進している」「尹政権をこのままにしては主権も平和も国民の安全も歴史正義も成し遂げられない」とし、政権退陣を求める意思を明らかにした。そして、主権と平和、歴史正義の実現に共感する各界の積極的な参与を訴えた。

「自主連合準備委」発足



「自主連合準備委」結成式

2月17日に解散した「祖国統一汎民族連合南側本部」は解散後、「新しい全国的な反米反帝自主の運動組織（新組織）」の結成準備を進めてきたが、7月18日にソウル市内で代表者会議を開催し「（仮称）自主連合準備委員会」を発足させた。同準備委が指導力・執行力の構築、会員の確保、地域・部門組織の建設など具体的な準備活動を展開し、公式に新組織を発足させる計画。

同準備委は新組織の性格を「反米反帝の旗の下、韓国社会の自主化に貢献する大衆的連合組織」と規定し、△反米闘争の日常化と全国化を通じた反米闘争力量の強化△民衆主導の大衆的な反米戦線の建設が新組織の役割となると説明した。

●都内で尹錫悦政権弾劾集会を開催…韓成祐委員長がアピール



アピールする韓成祐委員長（左）

「東京民主実践連帯（東民連）」は7月13日、都内で「尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権弾劾集会」を開催。韓統連・韓青と在日同胞、日本人が有志で参加した。

韓青中央本部の韓成祐（ハン・ソンウ）委員長は尹政権について「内政では国民の要求に対して拒否権を連発し、外交では恥知らずな発言で軍事的危機をもたらしている。まさに韓国歴代最悪の執権者と言うほかない」と厳しく糾弾。「朝鮮半島での戦争を防ぎ、真の意味で対等な韓日関係をつくるため共に立ち上がろう」と呼びかけ

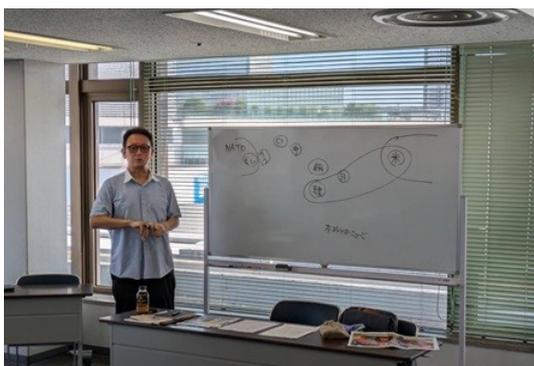
た。

韓統連の李香代子（イ・ヒャンデジャ）氏は「最近では韓国、米国、日本が合同で軍事演習することが普通になっており、大変危険だ。戦争が起こって真っ先に犠牲になるのはわたしたち一般市民だ。戦争危機を高める尹錫悦政権を一日も早く退陣させよう」と訴えた。

インターネットメディア「日本のメディアが伝えない週刊韓国ニュース」の西田尚史氏、金床憲（キム・サンホン）氏が発言。尹政権によるマスメディア統制や歴史問題、韓米日軍事協力に対して怒りの声を上げた。また、日本人市民歌手の武幸二郎氏が平和への思いを語りながら「アチムイスル（朝露）」などを熱唱した。

韓統連の李俊一（イ・チュニル）事務長が閉会あいさつ。「大統領弾劾を要求する国民請願が130万人にもものぼり、退陣への闘いは日ごとに高まっている。朝鮮半島で戦争が起これば、日本も戦場と化す。自らの命を守るため、韓米日の戦争勢力を市民の力で追い出そう」と訴えた。

●韓統連神奈川が情勢学習会を開催…李俊一事務長が報告



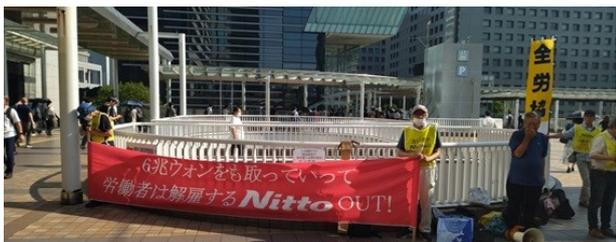
報告する李俊一事務長

韓統連神奈川本部は7月21日、横浜市内で情勢学習会を開催した。文世賢（ムン・セヒョン）代表委員が主催者あいさつ。「韓国で開催される8.15大会では、祖国の平和を願う大きなうねりができるだろう。今回の学習会で大会の意義を共有し、国内の同志たちと心をひとつにしていきたい」と語った。

韓統連の李俊一（イ・チュニル）事務長が報告。韓国の尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権について「先日チェ上等兵に対する特検法に対して尹錫悦大統領はまたしても拒否権を発動し、国民の怒りは頂点に達している。弾劾を要求する国民請願には130万人以上が賛同しており、弾劾・退陣が一步一步近づいている状況だ」と解説。

「尹政権は戦争危機を醸成することによって政権危機を脱しようとしている。朝鮮半島での核戦争を阻止するためには、なんとしても尹政権を退陣させなければならない。平和連帯をはじめとした国内の自主平和勢力が開催する8.15汎国民大会に韓統連も積極的に連帯し、退陣運動と平和運動を連結させ、朝鮮半島の平和を勝ち取っていこう」と語った。

●「韓国オプティカルハイテック労組を支援する会」が月例行動…日東電工を糾弾



品川駅前の宣伝行動

「韓国オプティカルハイテック労組を支援する会」が主催する月例行動が7月22日に実施された。

朝8時から品川駅港南口のデッキで宣伝行動。韓統連の宋世一（ソン・セイル）委員長が「尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権は『良好な韓日関係』を維持するために、日本政府に付度し、日東電工による韓国オプティカルハイテック労組への弾圧を意図的に無視している」と指摘し、「弾劾請願140万に示されるように反尹世論は日増しに高まっており、8月から大規模な退陣闘争が準備されている」と紹介しながら、

韓日民衆連帯の力で争議勝利を実現しようとアピールした。

その後、日東電工東京本社（品川シーズンテラス26階）に対し交渉を受け入れるよう要請したが、日東電工はいつものように要請文の受け取りを拒否し門前払いの姿勢。参加者はビル前で「『食い逃げ』日東電工は偽装廃業を撤回し交渉に出てこい」「日東電工は韓国オプティカルハイテック労働者の雇用継承の責任を取れ」と声を上げた。

一方、日東電工の株主総会が6月21日に大阪で開催され、同支会組合員8人が日本遠征闘争に取り組んだ。支援者と共に総会に向けて主張、抗議を展開し、総会後は2人が東京本社への抗議要請行動、「東京総行動」などに参加し、同支会労働者の強い決意と韓日労働者の堅い連帯を示した。

（一部既報）

●「東アジア市民連帯」が停戦71周年シンポジウムを開催…朝鮮半島の平和をアピール



発言するソン・ジョンモク副院長

「東アジア市民連帯」は7月22日、都内で「朝鮮戦争停戦71周年シンポジウムー戦争危機を克服し、自主、平和へー」を開催。朝鮮半島・国際問題研究会の李柄輝（リ・ビョンフィ）副会長、「反戦反人種差別行動」（ANSWER）連合のブライアン・ベッカー事務総長（ビデオ出演）、統一時代研究院のソン・ジョンモク副院長（韓国進歩連帯教育委員長）、大阪経法大の浅井基文客員教授が登壇し、朝鮮半島情勢について討論した。

李氏は朝鮮の対南政策転換の背景として、韓米日による対朝鮮敵視政策を指摘。

「韓米日は中国・朝鮮に対する先制攻撃能力の保有にむけた異次元の軍拡に突き進んでいる。これに対して朝鮮は『敵対的国家関係』という認識のもと、戦術兵器をもって戦争を抑止しようとしている」と語り、今後の課題として「北南関係の改善と平和を求める世論形成が必要だ」と強調した。

ソン氏は韓国の尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権について「尹政権は発足以来最大の危機を、戦争危機を醸成することによって乗り越えようとしている」と批判。「韓国の自主平和運動は、現状維持を平和とみなさず、米国の問題を広く知らせ、真に自主的な民主的な政権を樹立することを目標としなければならない」とし、△米国の本質を明らかにする△尹錫悦政権退陣と最大限自主的な性格の政権樹立に総力を集めることを課題とし、具体的な闘争課題として8.15汎国民大会への最大限の結集を呼びかけた。

またブライアン氏は米国の覇権戦略、浅

井氏は日本の軍事大国化について問題点を指摘し、国際的な連帯運動による平和世論の喚起を訴えた。

集会アピール文を通じて、韓米日合同軍事演習の中止と対朝鮮敵視政策の転換を要求し、参加者の拍手で確認された。

●都内で汚染水海洋投棄抗議行動・・・李俊一事務長がアピール



アピールする李俊一事務長

「さようなら原発1000万人アクション実行委員会（実行委員会）」は7月24日、首相官邸前で「7・24放射能汚染水を止めろ！ 官邸前抗議行動」を開催した。

実行委員会から主催者あいさつ。「先日7回目の汚染水放出が強行された。無責任、無計画な放出をこれ以上許すことはできない」「来月迎える1周年では多くの人

を結集させ、汚染水の放出を阻止していこう」と語った。

反原発団体や市民団体などがアピールする中、韓統連の李俊一（イ・チュニル）事務長がアピール。「7月17日、韓国がチェコ原発の建設権を獲得した。原発を世界に拡散させる尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権のあり方は決して容認できない」

「韓国で開催される8・15汎国民大会では、退陣運動と平和運動が結合し、戦争反対の世論が大きく高まるだろう。韓統連も積極的に連帯し、尹政権を退陣させることにより核のないアジア、戦争のない世界づくりに努めていきたい」と語った。

参加者全体でシュプレヒコール。「放射能汚染水放出をやめろ」「これ以上海を汚すな」と訴えた。

행사예정 行事予定

8月

8・6ヒロシマ平和のつどい2024

日時：8月5日（月）午後5時30分開始 場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 内容：報告「朝鮮半島の平和と南北統一のために」（尹康彦（ユン・ガンオン）韓統連広島本部代表委員）他 主催：同実行委員会 連絡先：090-4740-4608（久野）

在日コリアン青年学生のための本当の韓国発見ツアー「チンチャコリア」

日時：8月10日（土）～12日（月・休） 内容：光復節記念大会、韓国青年学生との交流、DMZ（非武装地帯）平和紀行、都羅山統一展望台、ソウル市内観光など 参加費：30,000円（食事・宿泊など現地滞在費、航空便は各自手配） 主催：在日韓国青年同盟 連絡先：03-4400-5331（韓）

9月

映画「WARmerica(ウォーメリカ)の運命」上映会(三重)

日時：9月8日（日）午後1時開場、午後1時30分開演 場所：四日市市総合会館 内容：【第1部】上映会 【第2部】講演会「多様化する世界と朝鮮半島情勢の展望」（講師：金昌五（キム・チャンオ）副委員長） 料金：一般1,000円 高校生以下無料 主催：同実行委員会 連絡先：090-9021-4879（金）